



山手学区地域まちづくり計画

～すべての人が 支えあい ひとりにさせない まちづくり～



2016年9月

山手学区まちづくり推進委員会



山手町 三宝寺付近から見た山手学区

目次

1 はじめにP.	1
2 学区の沿革P.	2
3 学区の概要P.	3
4 学区の統計P.	5
5 意識調査P.	6
6 地域まちづくり計画P.	10
7 将来に向けた組織体制P.	13
山手・郷分歴史マップ	裏表紙



芦田川 対岸から見た山手学区

1 はじめに

「山手学区地域まちづくり計画」の策定にあたり一言ごあいさつ申し上げます。
本学区は、北に萱野（かやの）山を配した平野で、気候は、中国山地と四国山地に挟まれ、温暖にして自然災害も少なく適度な環境に恵まれた地域です。かつては、米や麦の栽培が盛んな穀倉地帯であり、古くから山陽道の要所で銀山城跡址をはじめ多くの遺跡が存在するなど、歴史のある町でもあります。

1981年（昭和56年）人口の急増により泉学区から分離して「山手学区」が誕生しました。また、1983年（昭和58年）には山手町平野部の面積の約7割に当る46.6ヘクタールの区画整理事業が完成し、公共施設、住宅区域、準工業地帯の市街化地帯に大きく変貌をいたしました。

現在、福山市の統計によると、山手学区は、人口約5,700人、世帯数約2,400世帯となっています。

近年では、学区内における県道赤坂・奈良津線の新設工事や小田川の改修工事が行われ、山陽自動車道の福山サービスエリアのスマートインターが2年以内に完成予定とされ、ますます都市化が進んでいます。

今後は、少子高齢化・人口減少社会の進展にともない、さまざまな課題が生じてくることが予想される中、本学区における望ましい将来のまちづくりの柱として、教育・文化、環境、福祉、活力、安心・安全を分野とした「山手学区地域まちづくり計画」を山手学区に暮らすみなさんのご意見を取り入れ、作成いたしました。

2016年（平成28年）9月

山手学区まちづくり推進委員会
委員長 廣川 昭慶



2 学区の沿革

1868年～1911年	山手橋は石橋沈下橋であった期間
1949年 7月	山手橋が木橋に架け替え
1960年 12月	山手橋が鉄筋コンクリート橋に架け替え
1966年～1968年	山手県営住宅誘致
1975年, 1978年	山手橋上流側, 山手橋下流側に歩道橋を設置
1981年 4月	福山市立山手小学校開校（泉学区から分離）
1982年 4月	福山明るいまちづくり協議会山手学区委員会発足
1982年 4月	山手学区人権学習推進協議会発足
1982年 7月	大通り（都市計画街路 津之郷・奈良津線）開通
1982年 9月～	住民学習会を実施
1982年 12月～	住居表示実施
1983年 9月～	第1回城西校区同和教育講座実施
1985年 3月	山手公民館開館
1990年 11月～	第1回ふれあい福祉大会実施
1991年 4月	防犯組合結成
1993年 10月	山陽自動車道（河内～福山西）開通
1996年 4月	第1回山手学区民大学開講
2000年 11月	山手学区20周年記念事業実施
2002年 11月～	第1回山手学区防災訓練実施



自主防災訓練実施風景

2006年 4月	山手学区まちづくり推進委員会発足
2010年 11月	山手学区30周年記念事業実施
2013年 3月	山手橋架け替え完了（現在）
2013年 10月	山手橋河川敷に第2福山市グラウンド・ゴルフ場オープン
2015年 12月	県道奈良津・赤坂線街路改良工事着手



3 学区の概要

<特徴>

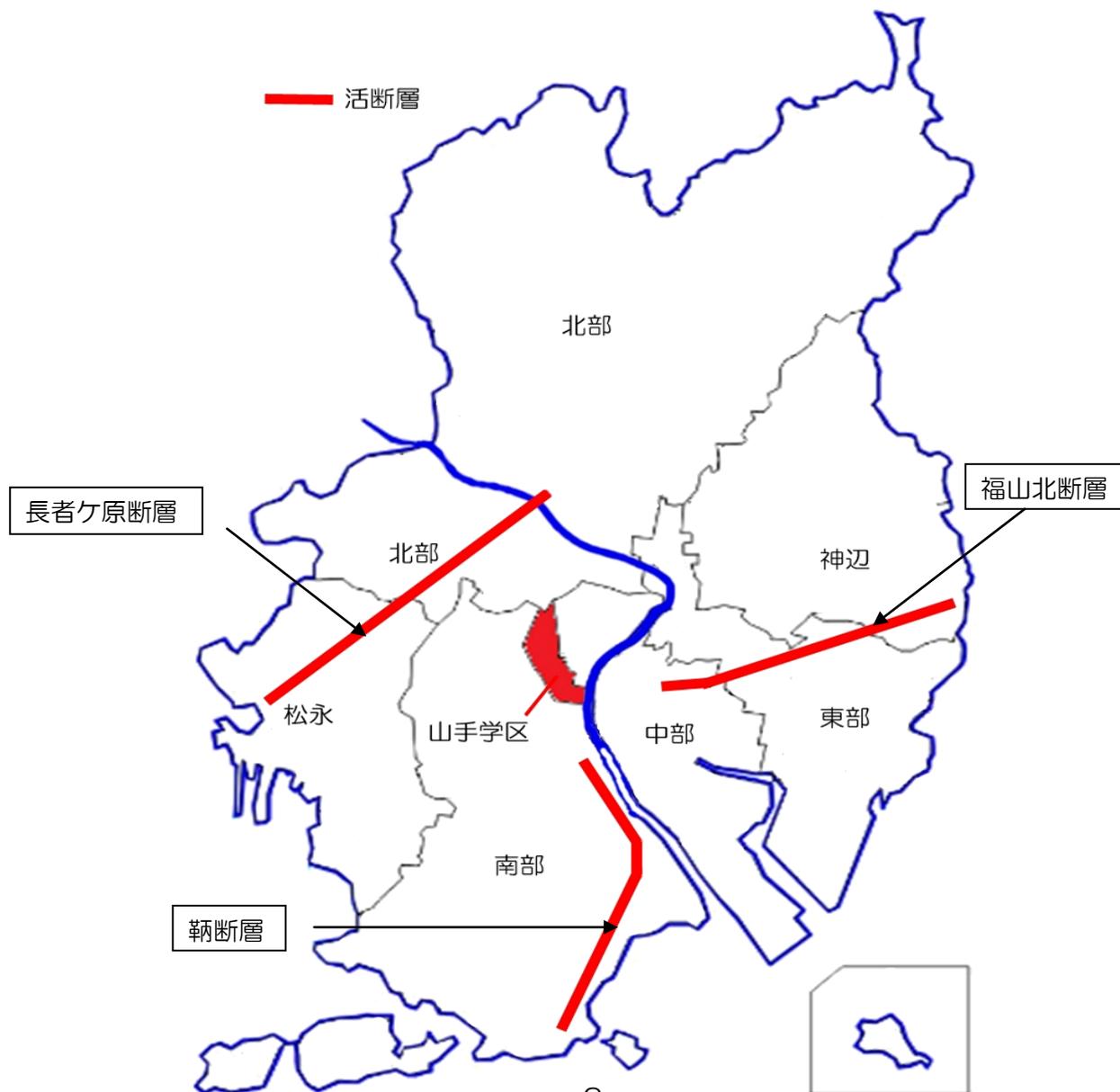
泉学区と分離して35年になる山手学区は、JR福山駅より西へ6キロメートル、JR山陽本線から北側、芦田川に面した萱野（かやの）山を北側に配し、10町内会で結成されています。

世帯数約2,400世帯 人口約5,700人の学区です。

かつては、田園の広がる農村でしたが、福山市の人口が増加するとともに、公営住宅の誘致、道路整備等でベッドタウン化が進み、農地は宅地へと変わっていきました。

<災害>

もくばら
杵原地区には水害・土砂災害を防ぐために3カ所の砂留めがあり、現在里山づくりの整備も進んでいます。山手学区は、市内にある**3本の活断層**に囲まれており、**直下型地震**が発生した場合、影響も大きいと予想され、また、芦田川の湾曲した右岸で、水害が起こりやすく、特に南東部は川砂の堆積土であるため、**液状化現象**の可能性も懸念されます。



<名所・史跡など>

弘法さんの東側には、御調郡木梨の杉原氏が築城したと伝えられる銀山城跡があります。また、小田川には、天井川で上流は急流のため、砂留めの工事をした小田川砂留、その支流に道佐の滝があり、杵原地区には、^{もくばら}杵原古墳や^{もくばら}杵原辻堂があり、小田地区には、伝通庵跡（現在は小田会館として再建されたもの）があり、さらに、漢方医であった藤井好直家跡があります。山陽道を一里ごとに塚が設けられ、旅人に道のりを示す印として大切な役割を果たした榎の木が現在も残っています。

福山市の無形文化財に指定されている「はね踊り」は、山手学区に於いても秋祭に実施されています。



山陽道一里塚跡



銀山城跡



小田川砂留



湯伝稲荷神社

4 学区の統計（資料 「福山市統計」）

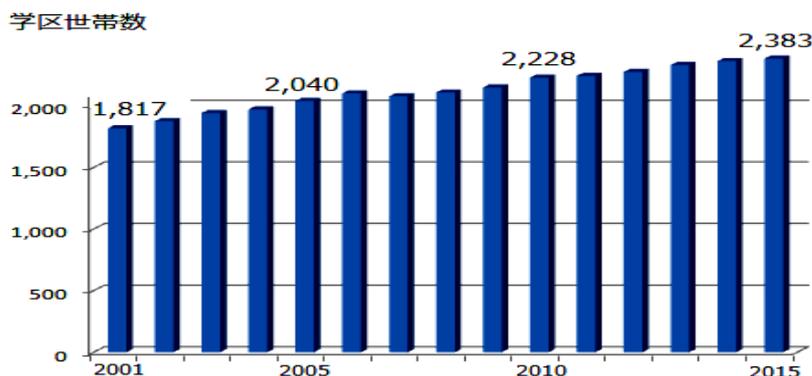
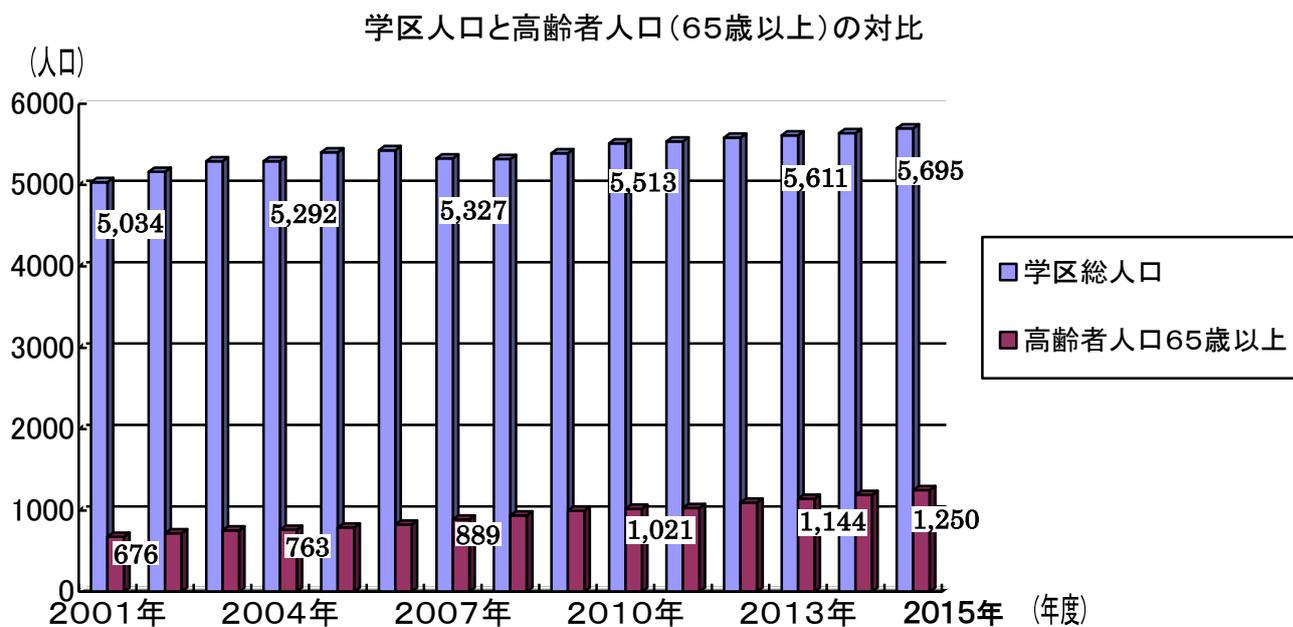
福山市の統計によると、現在の人口は約5,700人で、2001年度（平成13年度）以降、ほぼ毎年増加し、15年間で約660人の増加となっています。

世帯数では、現在約2,400世帯で、2001年度（平成13年度）以降、毎年平均40世帯ずつ増加し、15年間では、約560世帯の増加があります。

高齢化率は、現在21.9%で、市内でも若い世代の人が多い学区であると言えます。

しかし、一方で65歳以上の高齢者人口は、現在約1,250人であり、15年間で約570人の増加が見られます。

また、つぎの図には掲載していませんが、64歳未満の人口は2005年度（平成17年度）の約4,600人がピークで、2009年度から一時的に増加しているものの、2011年度（平成23年度）から今日まで減少が続いています。



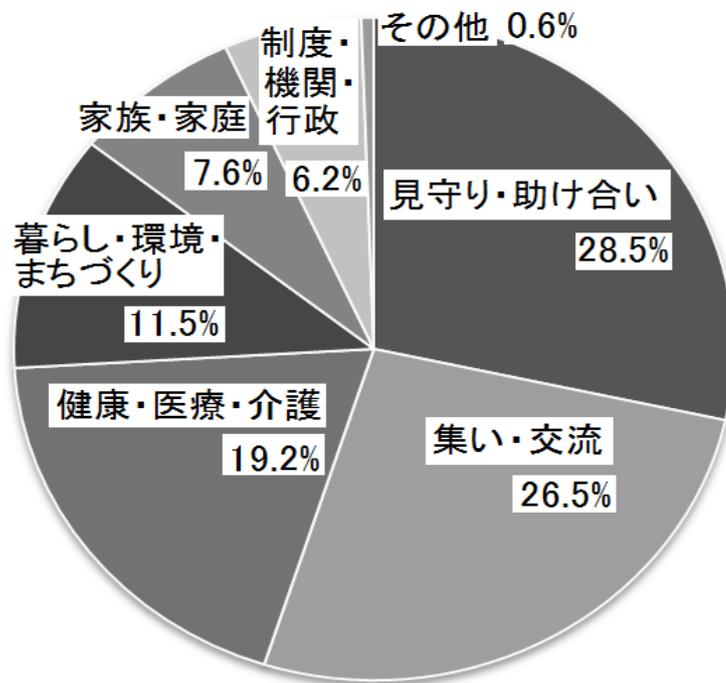
5 意識調査

山手学区地域まちづくり計画の策定にあたり、町内会長や各種団体長を対象に、「アンケート調査」を実施しました。また、2015年度（平成27年度）の住民学習会では、全ての会場でワークショップを行い、参加した住民のみなさまから多くの意見をいただきました。

これらの意見を集約・分析し、住民のみなさまのまちづくりに対する意識として、本計画に反映させています。

「ワークショップ」の意見を大別した結果、次のグラフのとおり「見守り・助け合い」に関する意見が28.5%と最も多く、続いて「集い・交流」に関する意見が26.5%、「健康・医療・介護」に関する意見が19.2%、「暮らし・環境・まちづくり」に関する意見が11.5%と続きました。

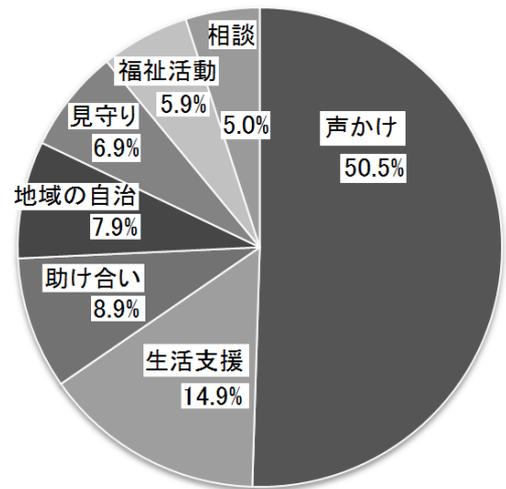
全体的には、地域のコミュニケーションに関する意見が半数以上を占め、安心して暮らせるまちづくりが求められていることがわかりました。



■『見守り・助け合い』に関する意見の内訳

「あいさつや世間話」、「声をかけて話を聞いてあげる」、「散歩などは誘い合わせる」など、**近隣の人への「声かけ」**の必要性を感じる意見が50.5%で、半数以上を占めました。

また、高齢化や1人暮らし家庭が増える中で「庭木の手入れ」や「ゴミ出しの手伝い」などの「生活支援」や「助け合い」に関する意見が続いて多く、それに関連して「災害時に支援ができるシステムづくり」や「高齢者の孤立を防ぐ方法が必要」など、「地域の自治」や「福祉活動」に関する意見がありました。



<各種団体から出た意見>

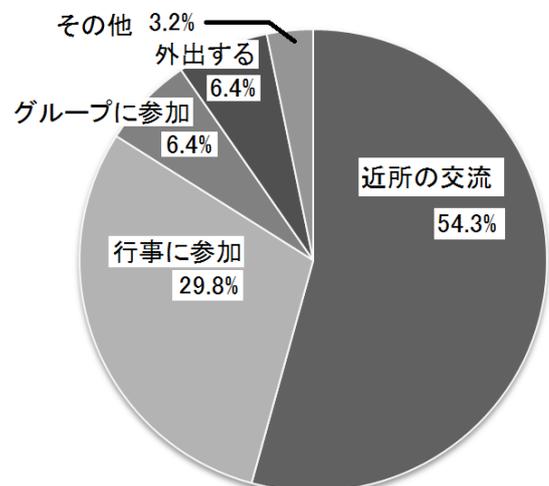
- ・町内会の加入世帯が減少するなど、地域のことに對して関心を持たず地域の活力が失われている。
- ・同級生や知人などに役員になってもらうよう声かけをする。
- ・現在ある班の体制で近所を見守る。
- ・日常的な見守りや声かけ活動を行う。
- ・人の集まる場所に「みんなの声」の箱を置いてはどうか。
- ・町内会の中で、会員数が少ない組の場合、編成の見直しを行ってみる。
- ・見守りや助け合いなど、相互扶助の精神に基づいた呼びかけと活動を推進する。
- ・高齢者を取り巻く問題について理解を深め、見守りや助け合いなど、相互扶助に基づいた地域活動に取り組む。



■『集い・交流』に関する意見の内訳

「相談ができる人間関係」「一緒に遊んだり出かけたりする友人を作る」など、**「近所の交流」**を求める意見が54.3%で、半数以上を占めました。

また、続いて多かった「行事に参加」では、「地域の行事に参加すること」に合わせ、「**参加しやすい行事を作る**」「**集いを目的としたサークルや行事を作る**」ことも多く求められました。



＜各種団体から出た意見＞

- ・スポーツ大会などの各種行事について、参加者が少ないことや団体役員のなり手がいないなどの実態がある。
- ・「一歩外に出よう」をスローガンに、何人かが集えるような行事を考える。
- ・楽しいレクリエーションを企画し、呼び込む。
- ・スポーツ行事では、地域の住民が「参加してよかった」というようなものにする。
- ・誰でも楽しく参加できる内容を考える。
- ・関心を引き付けるような伝統的な行事の掘り起こしをする。
- ・人と地域のつながりとして特に近年、地域の行事に賛同が難しくなった。対策として小グループ（各町内会単位）から取り組み、皆が出てきやすいレクリエーションを考える。
- ・もっとたくさんの世代とふれあえる行事があればよいと思う。
- ・町内会の行事へ参加を通じてコミュニケーションを図る。
- ・町内の行事に参加してもらい、それぞれの人間関係が構築できるよう取り組む。
- ・多文化共生や世代間交流などを目的とした行事に取り組む。

■『医療・健康・介護』に関する意見の内訳

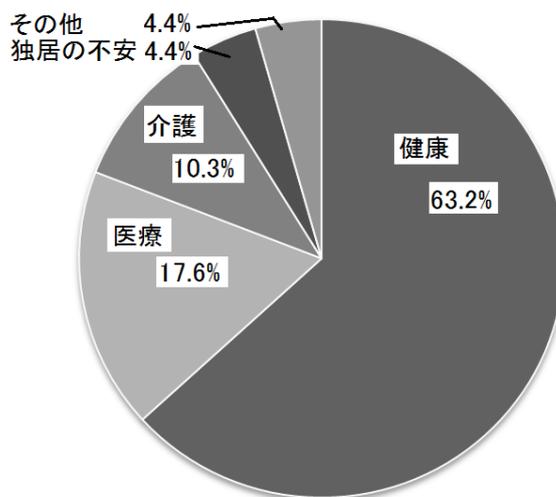
「健康」に関する意見が63.2%を占め、「散歩をする」「減量する」など、生活改善や体力づくりといった健康志向の意見が多くありました。

また、持病や認知症などについて**日常生活に不安を感じている意見も多くありました。**

「医療」に関する意見が17.6%で、「近くの病院に主治医を持つ」「かかりつけの医者を決める」など、医師の指示をあおぎやすくするための工夫について、意見が多くありました。

「介護」に関する意見は10.3%で、「足が不自由で買い物に行けない」「認知症でゴミ出しが困難」

「散歩に付き添ってほしい」など、**生活支援を求める意見も多くありました。**



各種団体から出た意見

- ・高齢者の一人暮らしの世帯が多くなっていることは、全国的な問題として取り上げられている。山手学区においても同様の課題がある。高齢者の世帯に役員をお願いするには、無理な部分もあり、役員を受けていただいた若い世帯の負担が大きい。

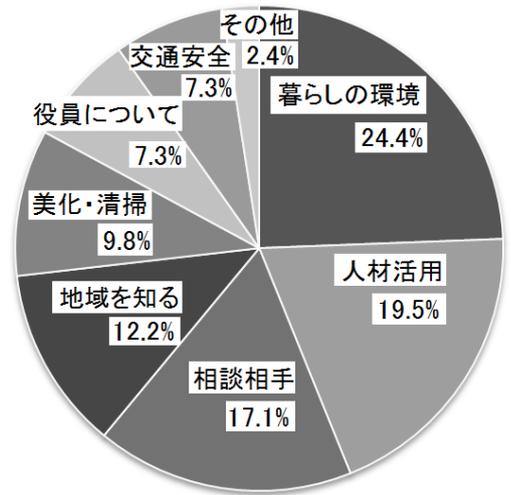


■ 『暮らし・環境・まちづくり』に関する意見の内訳

「暮らしの環境」に関する意見が24.4%で一番多く、「支えあう行事の充実」や「一人暮らしの高齢者が暮らしやすいまち」など、「町内会や地域のありかた」に関する意見が多くありました。

「相談相手」に関する意見が17.1%で、いざという時の相談相手として町内会の役員や民生委員などに頼りたい意見が多くありました。

「地域を知る」に関する意見が12.2%で、高齢独居の世帯など、地域のどこに誰が住んでいるのかを把握する必要性について意見が出されました。



<各種団体から出た意見>

- ・人口や世帯の増加が10年近く続いている。人間関係の希薄化が懸念されている。
- ・外国人市民も少しずつ増えていることから、異文化理解の機会が求められている。
- ・お互いの理解を深め、差別や偏見のない人間関係づくりの推進に取り組む。
- ・近年、全国的に子どもの事件が多発している。対策として各種団体で子どもを見守り、山手交番に警察官の常駐を要望してはどうか。
- ・美化活動を通して「明るく住みやすいまちづくり」を共通意識として持ってもらう運動を継続して行う。
- ・さまざまな団体が連携して情報の共有化を図る。
- ・住宅の周辺に生えた雑草を放置している状態があったり、ゴミの出し方について分別が徹底されないためにステーションにゴミが残ったりなど、美化や清掃が行き届かないという生活環境の悪化がある。
- ・ゴミの有料化を視野に入れたゴミの減量化に取り組む。



6 地域まちづくり計画

(1) 計画策定の趣旨

将来において、少子高齢化・人口減少社会の進展にともない、さまざまな課題が生じてくることが予想されることから、本学区における望ましい将来のまちづくりの方針として、教育・文化、環境、福祉、活力、安心・安全を分野とした「山手学区地域まちづくり計画」を策定する。

(2) 計画の位置づけ

山手学区の住民が日頃から感じる課題や望ましい将来像を互いに出し合い取りまとめたものであり、今後、学区におけるまちづくりの「柱」となっていくものとする。

(3) 計画期間

2017年度（平成29年度）から2019年度（平成31年度）までの3年間とする。

(4) 基本方針

《人権文化の根づいた 誰もが安心して

生き生きと暮らせる 山手学区》

☆「誰もが安心して 生き生きと暮らせる」とは、全ての人が社会参加でき、孤立のない地域であり、「支えられる」ばかりではなく、「支える」側にも立てる地域づくりを目指す。



(5) 各分野における重点目標

① 教育・文化について

テーマ：生涯学習の推進

- ・次の世代を担える人材育成に努める。
- ・公民館・コミュニティ・ふれあいプラザなどの施設を活用し気軽に集い，教えあえる生活文化を高める。
- ・多文化，世代間交流を推進し，地域の教育力を高める。

② 環境について

テーマ：コミュニティ

- ・清掃美化活動や地域のユニバーサルデザインなどに取り組む事によって誰もが暮らしやすい生活環境を整えていく。
- ・学区・町内会・班・組内などで親睦と交流を図り，地域のコミュニケーションを推進する。

③ 福祉・人権について

テーマ：助け合いの推進

- ・誰もが安心して暮らせる町となるよう地域福祉の充実を図る。
- ・住民相互の理解を深め，差別や偏見のない人間関係づくりを推進していく。

④ 活力について

テーマ：生きがいづくり

- ・みんなが楽しく集える行事などの機会を創出し，協力と団結のあふれる地域づくりを進める。

⑤ 安心・安全について

テーマ：住みよいまちづくり

- ・高齢者や障がい者（児），子ども，女性など社会的に弱い立場の住民が安心して暮らす事のできる環境を整備する。
- ・見守りや助け合い相互扶助の精神に基づいた地域づくりを進める。
- ・防火，防犯，防災についての理解を深め，対応力のある地域づくりを進める。

(6) 行動指針

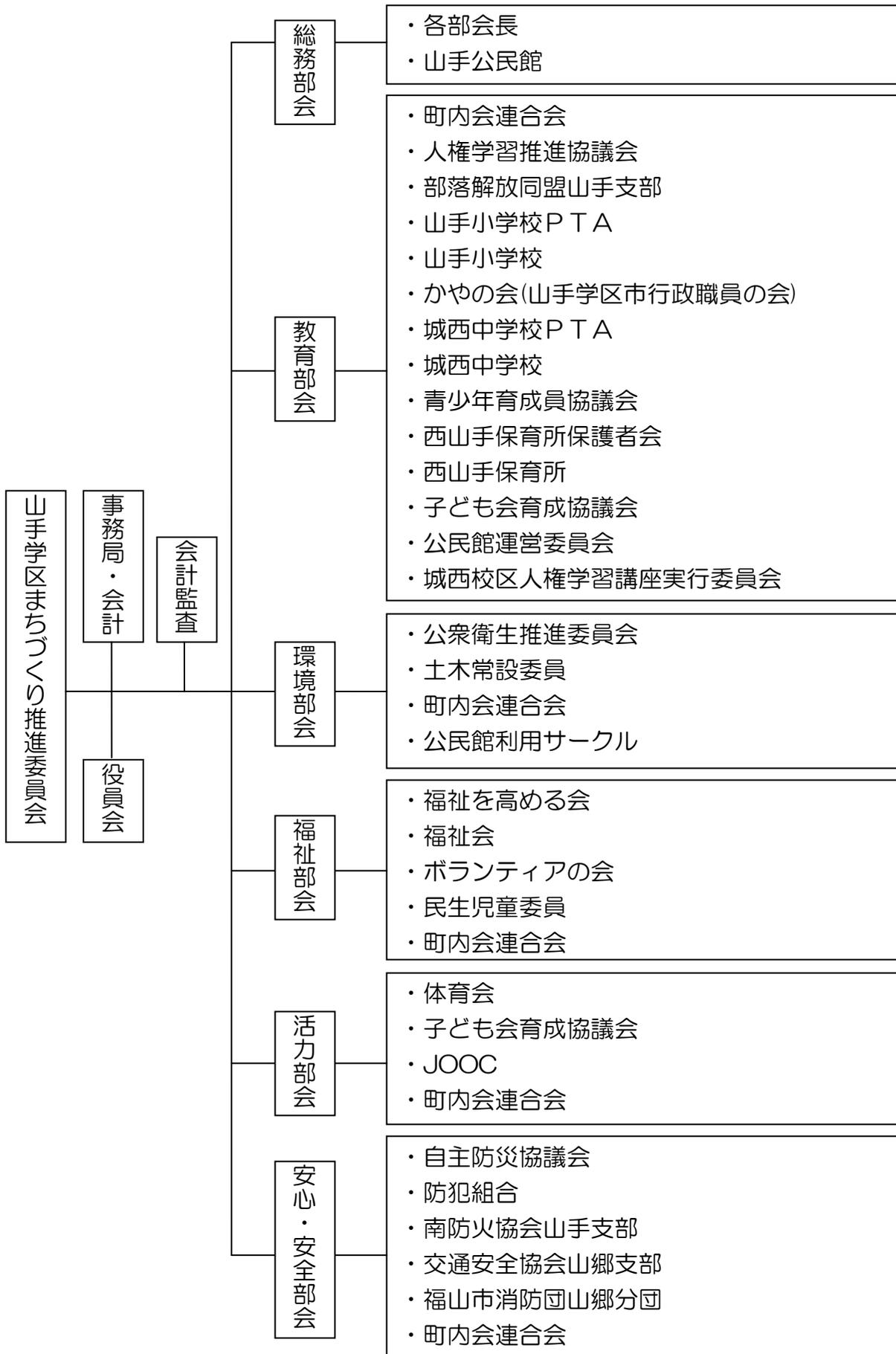


(7) 課題解決に向けた取組内容とスケジュール

分野	取組み内容	実施主体	目標期間
総務	広報活動	総務部会	短・中・長
	報告		短・中・長
	納税推進事業		短・中・長
	その他必要な事業		短・中・長
教育・文化	子どもの健全育成	教育部会	短・中・長
	成人の生涯学習		短・中・長
	人権学習		短・中・長
	合同レクリエーション		短・中・長
	その他必要な事業		短・中・長
環境	コミュニティ育成事業	環境部会	短・中・長
	分別・リサイクル啓発事業		短・中・長
	一斉溝清掃		短・中・長
	犬糞対策		短・中・長
	芦田川・小田川清掃		短・中・長
	公民館年末大掃除		短・中・長
	その他必要な事業		短・中・長
福祉	就学前子育て支援	福祉部会	短・中・長
	ふれあいいきいきサロン		短・中・長
	福祉サービス		短・中・長
	敬老会		短・中・長
	文化財先進地視察研修事業		短・中・長
	喫茶サロン		短・中・長
	その他必要な事業		短・中・長
活力	学区夏まつり	活力部会	短・中・長
	学区大運動会		短・中・長
	ふれあい福祉大会		短・中・長
	その他必要な事業		短・中・長
安心・安全	防火・防犯・防災	安心・安全部会	短・中・長
	交通安全		短・中・長
	その他必要な事業		短・中・長

目標期間：短期…1～2年程度，中期：2～3年程度，長期：3年以上

7 将来に向けた組織体制



山手・郷分歴史マップ

